

緊急処置の方法

もしも、赤ちゃんにけがや事故が起きてしまったら慌てず迅速に対応しましょう。

赤ちゃんは好奇心が旺盛で、何でも口に入れるなどするので、ちょっと目を離したすきに事故が起こってしまった、というようなこともあります。まずは、日頃からの事故防止に全力を傾けるべきですが、やむをえず事故が起きてしまったときは、すばやく判断・対応できるよう心がけておきましょう。

やけどしたとき

とにかく冷やす

すばやく患部を流水などで冷やす。服の上から熱湯を浴びた場合、すばやく冷水をかける。服が皮膚にくっついている場合は無理に脱がせないで、病院へ。

頭を打ったとき

すぐに泣いたか確認

頭を打っても、すぐに元気に泣いた場合は家で様子を見る。意識がなかったり、ボーッとしたり、けいれんや手足に麻痺があるときは、ただちに病院へ。後になって様子が変わることもあるので、しっかり様子を見てください。

骨折したとき

患部を確認する

患部をできるだけ動かさないようにして整形外科のある病院へ。

溺れたりして意識不明の場合

心肺蘇生の手順

- 1 肩をたたきながら声をかけます。
- 2 反応がなかったら、大声で助けを求め、119番通報とAED搬送を依頼します。
- 3 呼吸を確認します。胸と腹部の動きを見て、「普段どおりの呼吸」をしているか、10秒以内で確認します。
- 4 普段どおりの呼吸がなかったら、すぐに胸骨圧迫を30回行います。

1歳以上の子どもでは胸の厚みの1/3を目安として、十分に胸が沈み込む程度に胸の真ん中、胸骨の下半分をしっかり圧迫してください

0歳児の場合には、指2本を使って胸を圧迫して下さい。押す場所は胸の真ん中です。



- 5 胸骨圧迫の後、人工呼吸を2回行います。

ただし、0歳児の場合は、口と鼻をまとめて自分の口に含んで息を吹き込んでください。



- 6 胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返して行います。
- 7 AEDが到着したら、速やかに装着します。

のどに物を詰まらせた場合

アメやボタンなどが気管に入ってしまった…!など、急に激しく咳込み苦しがる、呼吸ができない、顔色・口唇の色が悪くなるなどの症状があれば、窒息の可能性があります。次の処置をして、それでもうまくいかない場合は、救急車を呼びましょう。

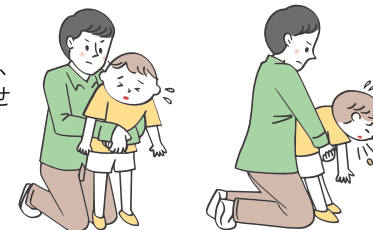
0歳児の場合: 乳児

片腕に乳児をうつぶせに乗せ、手のひらで顔を支えつつ頭を体より低くして、もう片方の手のひら基部で背中の中を数回強く叩きます。



1歳以上の場合

後ろから腕をまわし、肋骨の下で両手を組み、おなかを瞬間的につよく圧迫して吐き出させます。



食べ物以外の物を飲み込んだ場合

